初山別村

2022
令和4年2月

農業委員会だより

雪とたわむれて

村の牛乳はおいしい!?

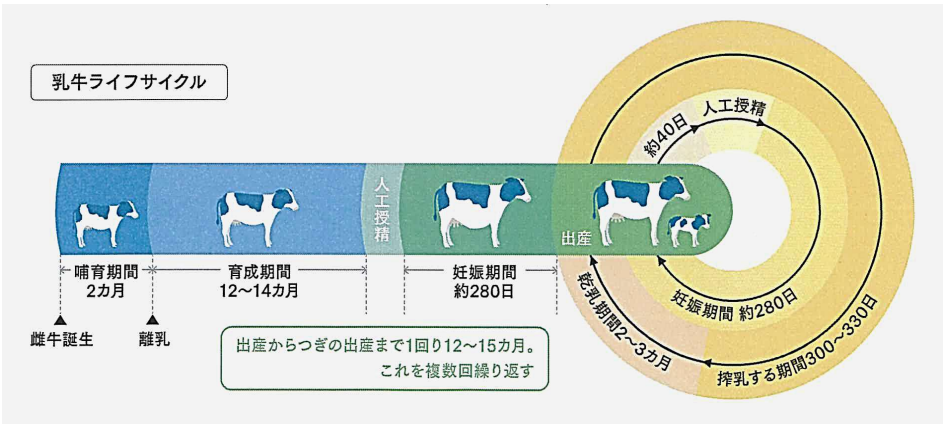
生乳は、蛇口をひねっても出てきません。それは「いのち」を紡ぐ物語だから。

酪農は、人と牛が毎日、毎日「いのち」と自然を紡ぐ営みなのです。

「生乳」とはしぼった乳のことです。それを生み出す乳牛は人と同じ哺乳類です。子を産んで初めてお乳を出します。

私たちが普段飲んでいる牛乳として家庭に届くまでには、約3年という時間が必要です。直ぐには増やせません。

また、余ったからといって、乳しぼりをやめることはできませんし、家族同様の牛たちを手放すこともできません。



令和2年、感染拡大の影響で学校給食用牛乳の需要が、8割喪失したといわれています。

さらには外食や観光の自粛により、乳製品の需要が大きく減りました。

このため、北海道の工場を中心に比較的賞味期限が長いバターと脱脂粉乳などの在庫を増やす対応をしてきました。

生乳は「足も早いが、使い道も多い」

北海道の生乳生産量の国内シェアは5割を超えており、初山別村で3845トン(牛乳パック385万本)です。

その一方で、道民の牛乳消費量はわずか2%に過ぎず、大半が乳製品に使われています。

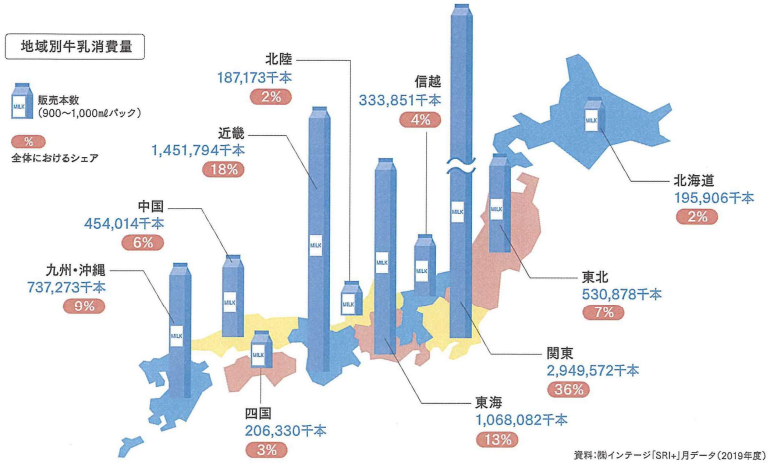
この差が生乳の「保存期間の短さ」を表しています。

新鮮ゆえに、消費地の本州に届けることができないというギャップとなっています。

そのギャップを埋めるため、「ミルクツリー」を見てわかるように、私たちの健康に役立つ沢山の食品に姿を変えていることがわかります。

毎日牛乳をモー一杯。

冬でもモー一杯。



昨年末、生乳が大量廃棄される心配がありましたが、皆さんのお陰で最悪の事態は免れました。

しかし、学校の春休みや感染状況が悪化すれば、外出自粛などにより再度、大量廃棄が心配されます。

極寒の中、酪農家の方が牛と共に生み出した生乳を無駄にすることがないよう、住民の皆さんも「お風呂上りに腰に手を当てて」飲んだり、牛乳を使った料理を作る、カフェオレやミルクティーを飲むなど、「モ～一杯」に参加しませんか。

「現場の声は」

明里地区で先代から家業を引き継いで３６年になる「峰川牧場」の峰川宏国さん５９歳は、「自分が美味しいと感じるものを飲んで欲しいと思い日々しぼっています。」

奥さまの昌江さんは「乳房炎に気を付けている。初産牛を始め、前搾りで変調がないか細心の注意を払っています。」と話す。

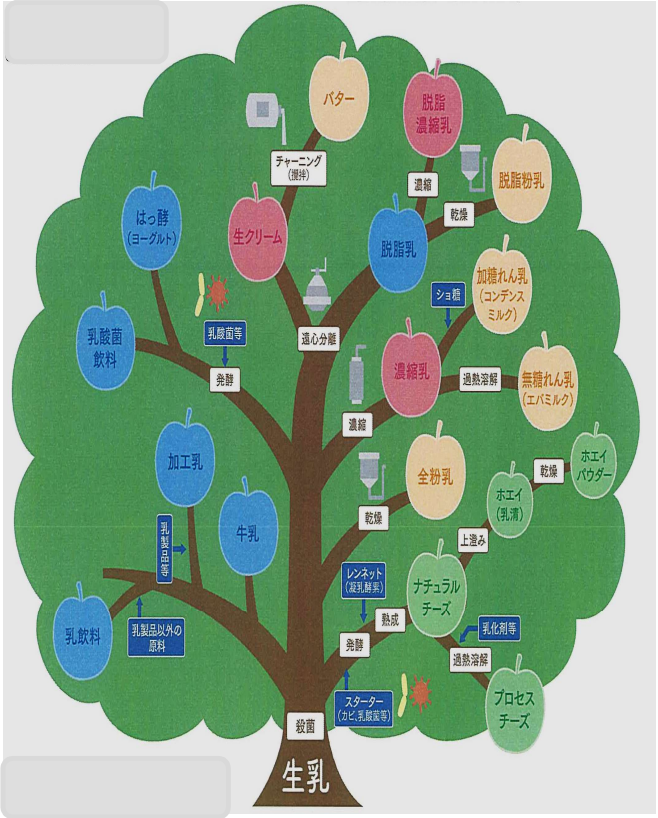
◇峰川さんは、平成１９年に北海道乳質改善大賞を受賞（全道で２２戸が受賞）

※ご注意～乳製品にアレルギーのある方に、協力をお願いするものではありません。

◇参考文献～一般社団法人Ｊミルク「日本のミルクサプライチェーン」

◇協力～㈱明治牛乳マーケティング部

ミルクツリー



モーモークイズ

○に入る文字は何？

Q　村の生乳の一部は？

「明治の○○○○牛乳」に現在使われています。

◇ヒントは本文にあります。答えがわかった方は住所・氏名を書いて、**３月７日**までにｆａｘ・メールで応募願います。

◇FAX：0164-67-2298

◇メール：keizai.noui@vill.shosanbetsu.lg.jp

◇正解者の中から抽選で１０名に乳製品商品券をプレゼント。なお、当選は発送をもって発表に代えます。

○提供～村農業みらい開拓クラブ

意見書の提出

令和３年１２月１３日、村農業委員会総会終了後、立田幸男会長と江端健一職務代理が農地等利用最適化推進施策に関する意見書を村長に提出しました。

※水田交付金の見直しは、作率約７割に迫る本村農業者にとって、離農をも加速させるものである。関係機関と共に速やかな対応を進められたい。

「村長室において」

北海道青年農業者会議

アグリメッセージ部門
秋山直人さん 最優秀賞

札幌市で開催された北海道青年農業者会議に260人が参加。アグリメッセージ部門の最優秀賞は「初山別村に改革を！夢をかなえるために」を発表した秋山直人さんが受賞しました。

「夢を語るのは青年の特権です。若者が初山別で農業がしたいと思える未来、農業に夢が持てるような未来を私は作っていきます。」と思いを述べました。

全国大会は3月に開かれます。

秋山直人さん（31歳）

ちゃれんじ農業女子

令和2年から、村では初となる農業に特化した地域おこし協力隊として研修を続けてきた荻原光央さん。

この度、研修先の木下喜代次さんと経営継承の調印を行いました。

調印には、立田幸男会長も立ち合い、4月からの就農を激励しました。

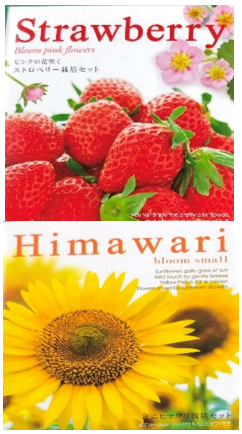
「役場にて」

村農業みらい開拓事業

第1弾は、有明の瞭陽農場や収穫の風景を地域おこし協力隊のフェイスブックで発信。

第2弾は、「草かんむりに母」と書く苺の栽培体験を行います。

第3弾は、保育所園児に手作りプレゼントを企画中です。



冬野菜講習会

村では令和4年度に向け、冬野菜の振興を計画中です。

農業改良普及センター主催の講習会には14名が参加。

座学を行った後、共成地区の㈱錦秋のハウスで秋山雅人さんから、春菊などの栽培について説明を受けました。

表紙から

写真は、字明里の長坂璃々奈（りりな8歳）さん、琉聖（りゅうせい5歳）さん。

長坂統真（とうま7歳）さん、蓮斗（れんと5歳）さんの2組のご兄弟がスノーチューブで遊ぶ一コマです。

兄弟の父である、長坂幸弥さん（指導農業士）、優太郎さんは昨年、2戸で㈱長坂組を設立しました。

○撮影は長坂めぐみさんにお願いしました。

農業者年金が便利に！

① 35歳未満の方は、月額1万から加入できます。
・2万円 ⇒ 1万円に引下げ

② 年金の受取り開始時期をご自身で選べます。
・65歳 ⇒ 65歳～75歳未満

〒078-4492 北海道初山別村字初山別96番地1
TEL0164-67-2211 fax67-2298 メール:keizai.noui@vill.shosanbetsu.lg.jp